SDGs新聞	東急不動産ホールディングス株式会社

キッチンから出る「使用済み油」で飛行機を飛ばそう

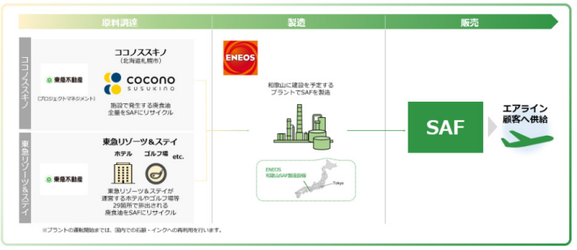
SDGsラジオを読んでみよう！

「廃食油」って何のことかわかりますか？廃食油とは、揚げ物などの料理をつくった後に残った油のことです。
日本では、年間で約50万トンもの廃食油が出ていて、家畜のエサなどにリサイクルされたりもしますが、
捨てられているものも多いのが現状です。
そこで都市や住まいの開発を行う会社「東急不動産」では、札幌の商業施設「COCONO SUSUKINO（ココノススキノ）」や、
グループ会社の東急リゾーツ&ステイが運営するホテルやゴルフ場で出た廃食油を回収し、「SAF（サフ）」をつくる取り組みをはじめました。
「SAF」とは、廃食油などから生まれた「飛行機の燃料」のことで、これまでの燃料と比べて、
CO2の排出量を6割以上減らせると言われています。
ムダづかいを減らして、しかも地球にやさしい。「SAF」はそんな夢のような燃料です。
みなさんが大人になる頃には、「飛行機はSAFで飛ぶ」、というのが当たり前になっているかもしれませんね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：廃食油と航空機のイメージ画像

揚げ物などの調理に使用された後に残った油を「廃食油」といいます。現在、日本国内では食品工場や飲食店、スーパー、コンビニなどから年間約50万トンもの廃食油が排出されています。廃食油は、主に家畜のエサなどにリサイクルされていますが、活用されずに廃棄されているものも多いです。そこで今世界では、この廃食油を活用した燃料「SAF（サフ）」に注目が集まっていて、航空機の燃料を従来の化石燃料から、SAFに切り替える取り組みが進められています。



画像参照：廃食油活用の流れ（東急不動産プレスリリースより）

都市や住まいの開発を行う会社「東急不動産」でも、廃食油をSAFの原料として活用する取り組みをはじめました。札幌の商業施設「COCONO SUSUKINO」や、グループ会社の東急リゾーツ&ステイが運営するホテルやゴルフ場で出た廃食油を回収し、SAFをつくっています。SAFは従来の飛行機の燃料と比較すると、6割以上のCO2削減効果があると言われ、地球温暖化防止に大きく貢献できると期待されています。日本では、「2030年までに、日本の飛行機に使う燃料の10%をSAFにする」という目標を掲げており、東急不動産もこの目標達成に向けたプロジェクトに取り組んでいきます。

キーワード

SAF

廃食油を活用してつくられる「飛行機の燃料」です。「Sustainable Aviation Fuel（サステナブル・エイビエーション・フューエル）」の略で、前から順に「持続できる・航空・燃料」という意味です。

化石燃料

石炭・石油・天然ガスなどの、動植物の化石からできた燃料となる地下資源のことです。

地球温暖化

大気中のCO2の濃度が増加して温室効果が高まり、地球の平均気温が上昇していく現象のことです。

対象ゴール

みなさんにできること！

廃食油を無駄にしないために、何ができるか考えてみましょう。

おさらい

- 日本では、年間で約50万トンもの廃食油が排出されている。
- 東急不動産では、廃食油を活用してSAFをつくる取り組みを行っている。
- SAFは従来の飛行機の燃料と比べ、6割以上のCO2削減効果があり、地球温暖化防止に役立つ。

メモ

SDGsラジオ